

# 分村のなぞ

高野を歩く

匠 探訪

—81—



西高野の庚申塔

笹曾根集落の会所と小堂のある場所が、1795年の記録に「笹曾根村 寛寿院」と書かれた寺跡とみられます。また、隣の八坂神社の1857年に奉納された手洗石にも「笹曾根郷」とあります。

「コウヤ」という地名は、「荒地を新たに興す」との解釈から中世末から近世初めに開墾された土地や集落に付けられ、「高野」「荒野」「興野」などと表記されるといいます。

国道126号線飯倉交差点を南に県道45号線を下ると、高野区の「笹曾根」「中高野」「戸田」の3つの集落があります。

江戸時代の初めに高野村の村域、村名や支配者が決まったと考えられますが、少ない資料をたどりますと、集落名が村名と混在して使われていることがわかります。

「戸田集落には薬師堂があり、1795年の記録には「戸田村修徳院」とあり、稲荷神社近くの1782年の庚申塔にも「戸田村」と刻まれています。笹曾根と戸田の両集落の間にあるのが「中高野」集落です。中高野というのは通称名で、小字名は東です。これに隣接して現在は横芝光町域の行政区として「西高野」区があります。中高野と西高野双方に寺跡があり、1795年の記録にある「高野村東光寺」がどちらなのかはわかりません。

40年ほど前から疑問に感じていたことは、西高野が江戸時代には高野村に含まれ、明治のいつの時に分村したのではないかということです。

明治22年(1889年)の最初の町村合併の際に、現在の県道45号線を境に分村したのではないかとの想定が考えられます。しかし、合併して新村となった須賀村と東陽村(現在は横芝光町)の当時の記録を調べても判明しません。西高野が江戸時代から宮川村に含まれていたとも考えにくく、県道の敷設が分村のきっかけになったのではないかともしません。

西高野・共同墓地側にある1788年に造立された庚申塔には「高野村」とあり、3人の世話人の名が刻まれています。区内に残る10数基の江戸時代の石造物のうち説明の手がかりはこれと、中高野、西高野の両集落をさすとみられる「両郷中」と書かれた石の宮だけです。

高野村の分村を先入観を持って考えることは先走りかもしませんが、いつかはなぞを解きたいものです。

岡秘書課広報広聴班

☎ 73・0080